



2018/08/19 in ロータリーピア88  
**CENTURION WAKESURF  
 JAPAN OPEN 2018**

取材協力 ロータリーピア88 滋賀県大津市苗鹿3-12-1 TEL:077-579-5554 URL: <http://rotary-pier88.com>  
 (一社)日本ウェイクサーフィン協会 (本部)滋賀県守山市水保町1380番 事務局TEL:06-6312-3207 URL: <http://japan-wakesurfing.com>



今大会も多くの選手達がエントリー。teslaなどクルマの展示も行われ、高い注目を集めていた。飲食エリアではアイスやカレーなどが販売されていた。



陸上ではクルマの他にもセンチュリオンやシュプリームなどの2018年モデルを展示。また、センチュリオンのセカンドブランドとして人気のシュプリームボートも展示。



マリナーではセンチュリオンやシュプリームを中心に多数のトローイングボートを見ることができた。大会艇として、センチュリオンFi23 2018年モデルも登場。

8月19日(日)、滋賀県大津市のマリナーリゾートロータリーピア88で、「センチュリオン ウェイクサーフ ジャパンオープン2018」が開催された。今大会は今ウェイクサーフィン艇として大きな注目を集めているセンチュリオンボートの冠が付いた大会となった。当日は天候にも恵まれ、前回のびわ湖シリーズ第2戦同様多くの選手がエントリーした。今大会の競技艇はセンチュリオンとシュプリームの2艇となっており、

ブロンズレベルではCENTURION Fi23、デベロップメントレベルではSUPREME S238が使用された。この2艇は世界No.1とも言えるデカ波を楽しませてくれるボートで、ワールドチャンピオンシップでの公式競技艇としても有名だ。そんな、ロータリーピア88が自信を持って送り出しているセンチュリオンやシュプリームが競技艇となることで、エントリーしたライダー達は世界基準の波を体感できるため、業界



Shunsuke Habara



Ryugo Fukushima



Keisuke Hoshimoto



Takeshi Ishimoto



Kenta Nakayama



Yukihiro Miyamoto



Etsuko Hashimoto



Sun Hwa Kim



Maiko Mizuta



のレベルアップにも繋がっているのだ。また、世界No.1の波を乗りこなすスキルも求められるので、この大会で入賞するのはライダー達にとっても非常に名誉なことになるだろう。今大会のアウトロー・クラスではメン、ウーマンともにハイレベルな争いとなり、マリナーで生中継を見ていた選手やオーディエンス達も、高難度の技が決まる度に大きな歓声を上げていた。アウトロー・ウーマン・サーフではびわ湖シリーズ第

2戦に続き、橋本恵都子選手が抜群の技のキレと、安定感ある滑りを披露し、見事今大会でも優勝を飾った。アウトロー・メン・サーフではびわ湖シリーズ第2戦で準優勝だった羽原俊介選手が圧巻のパフォーマンスを披露し、第2戦優勝の福島龍悟選手に競り勝ち優勝した。こうした大会が開催されることで、各選手達が日頃の練習成果を披露する場所ができ、選手達のスキルも飛躍的に向上していくのだと思う。



1st.Maiko Mizuta 2nd.Takae Kitaya 3rd.Yumie Yamagata



1st.Kikuyo Suzuki 2nd.Yasuyo Sakata



1st.Yoshikazu Otuka 2nd.Yuuma Yamauchi 3rd.Yoshihiro Saki



1st.Hiroki Asai 2nd.Masanori Tomida 3rd.Kouji Kuramoto



会場には大会Tシャツを手がけたムータの山北社長(写真右)も来場した。



MCを務めた大坪直也さんと水田真依子さん。軽快なトークで会場を盛り上げた。



1st.Maki Yamamoto 2nd.Satomi Kaneda 3rd.Minori Neya



1st.Oh Jaeyoung 2nd.Yukio Watanabe 3rd.Masaki Inoue



1st.Yuka Kagawa 2nd.Yukina Ota 3rd.Ai Hayase



1st.Hisashi Ichinohe 2nd.Naoki Kigawa 3rd.Masaki Kano



1st.Etsuko Hashimoto 2nd.Sun Hwa Kim 3rd.Maiko Mizuta



1st.Shunsuke Habara 2nd.Ryugo Fukushima 3rd.Keisuke Hoshimoto